

可茂農林事務所の普及活動状況（7月）

今月の重点活動

■ 茶 東白川村の茶の産地計画に向けて

東白川村の茶業の衰退を打破するため、これまで村茶業振興会は、生産体制の概要調査、生産組合の組合員へのアンケート調査、ブランド化に向けた取り組み等を行ってきました。

今年度は茶業関係者、JA、行政等の委員からなる審議会を何回か開催し、将来ビジョン及び具体的な取り組み等について合意形成をして、来年度から実効的な活動ができる産地計画を策定することとなりました。

7月は2日と18日に、第2回、第3回の審議会で検討を行いました。KJ法を用いて、意見として出された現状の課題やあるべき姿から作成した将来ビジョンの案について議論を行い、合意形成がなされました。次回は、栽培、加工、販売等の各分野に分かれた分科会で詳細な検討を行います。

農林事務所は、今後も他産地の取り組み、国・県の施策を踏まえたアドバイスを行っていきます。
(園芸産地支援係・広瀬貴士)



【審議会の様子】

新たなブランドづくり

■ 栗 八百津町の栗振興 ～栽培講習会及び栗新品種「えな宝来」の加工商品化推進～

八百津町では農業普及課と栗の振興に関する取組を5年ほど前から本格的に行っています。

その一つが年間を通して実施している栽培講習会であり、7月17日には第2回講習会を実施しました。今年度から可児市栗振興会にも参加を呼び掛けて、過去最高の40名ほどの出席があり盛況となりました。

もう一つは岐阜県開発の栗新品種「えな宝来」の導入を見据えて、栗きんとんの原料としての「えな宝来」加工適性や製品の品質等の評価を受けるという取組です。昨年度は町内4軒の菓子店のうち1軒で実施し高評価を得ました。6月24日は菓子店代表と打合せを実施し、残る菓子店でも評価を行ってもらうために、継続して加工適正等評価を実施する方向となりました。

農業普及課では八百津町・JAと連携して、組織化の取組も含め、八百津町の栗振興に取り組んでいきます。
(園芸産地支援係・宮田洋輔)



【菓子店との打合せの様子】

売れるブランドづくり

■ 水稻 業務用米「あきさかり」、多収性品種「ほしじるし」生育調査

可児地域では、業務用米として需要が期待される新品種「あきさかり」及び「ほしじるし」の実証栽培を管内の担い手農家が行っています。

7月2日、9日、22日に、JAめぐみの（本店及び可児営農経済センター）、JA全農岐阜及び農業普及課が合同で生育状況調査を実施しました。

草丈も伸び、分けつも進んで生育はますます良好と思われませんが、田植えが遅れた担い手では生育がやや遅れています。



【7月上旬の「ほしじるし」】

また、追肥の適期を逃さないため、幼穂長を確認して生産者へ情報提供することとしており、7月18日のJAによる確認作業を支援しました。

農業普及課は、担い手の経営安定につながる活動を積極的に支援していきます。

(地域支援第二係・加藤昌亮、加藤瑞穂)

■ 新技術導入普及支援事業 **ドローンによる除草剤散布**

農業普及課では、新技術導入普及支援事業「環境に配慮した無人航空機（ドローン）の活用によるスマート農業の実践」にて、ドローンによる空中散布の状況把握と経済効果の検証に取り組んでいます。

6月26日、ドローンによる粒状除草剤の散布について調査を行いました。散布作業を動画撮影するとともに、作業にかかる時間や作業時の騒音などについて記録しました。

農業普及課は、今後も生産者の経営に役立つ新技術の普及に積極的に取り組んでいきます。



【除草剤散布作業】

(地域支援第二係・加藤瑞穂)

■ 夏秋トマト **第3期の産地戦略を議論して**

6月28日に白川町役場、東白川村役場、JAめぐみの、可茂農林事務所及び美濃白川夏秋トマト部会役員がJAめぐみの白川営業所会議室に集まり、美濃白川夏秋トマト産地戦略会議が行われました。

産地戦略会議は、行政等関係機関と産地が課題を共有し、生産者だけでは解決できない課題に対処するため、平成21年に結成されました。産地振興のための5ヵ年計画を策定し、第1期は技術的な課題を進め、単位面積当たりの出荷量を大きく改善し、第2期には後継者対策を重点課題とし産地面積を20%程度拡大させました。

産地の抱える課題は数多くあり、それら総てを網羅する計画に対し、関係機関から方向性が見えない等の厳しい指摘もある中で、第3期では、引き続き後継者対策を重点で進めると同時に、選果場の抱える課題の解決を重点に活動していく方向で議論が行われました。

(園芸産地支援係・永田真一)

■ 病虫害防除 **ハスモンヨトウの密度低減のために**

富加町農業振興会では、11年前から毎年、町内のハスモンヨトウの密度を減らすため、各会員が町全域でフェロモントラップを設置しています。

今年も、7月10日に役場から各会員にフェロモントラップに使用するフェロモンが配布され、指定された町内40か所に設置されました。

そのうち1か所は、役場の協力のもと農業普及課職員により役場敷地内に設置しました。

今後、約1週間に1回ほど誘導されたヨトウムシの数を調査し、ハスモンヨトウの密度を調査していきます。

農業普及課としては、密度を把握することで、ハスモンヨトウが増加しそうならば、会員に農業による防除を呼びかけていきます。



【トラップ設置状況】

(地域支援第一係・斉藤政隆)